

「教育文化・家の光プランナー」が参加する初めてのオンライン座談会を令和5年12月5日に開催しました。参加対象者は、7月18日～8月31日の期間で基礎編の動画を視聴し、「事後レポート」を提出したプランナー。日本協同組合連携機構(JCA)基礎研究部 小林 元 部長がコーディネーターを務め、10JA・11人のプランナー、そして【基礎編】の講師 JAしまね くにびき地区本部 越野 浩昭 常務理事 本部長も参加しました。

●令和5年度教育文化・家の光プランナー専修講座(基礎編)の開催報告は[コチラ](#)から

## ■ 事後レポートからみえてきたプランナー共通の課題



全国各地のプランナーがオンライン座談会に集まった

座談会では、まずはじめに、JCA 小林部長より「事後レポート」に関するコメントをいただきました。小林部長は、提出されたレポートすべてに目を通し、3つの共通の課題があることを指摘。1つは、広域合併のなかで支店の統廃合がすすみ、支店での活動のあり方について問題意識が生まれていること。2つめは、

職員の減少や採用難が続き、業務負担が厳しくなるなか、教育文化活動への理解が低下していること。3つめは、教育文化活動の理解促進をどうすすめていくべきか、職員教育の問題についてです。この共通の課題を念頭に置いて、座談会を進行しました。

## 次第

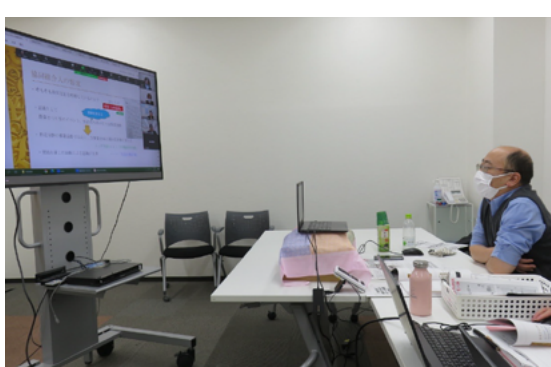


1. 参加者紹介
2. 実践編の目的について
3. 小林元部長による事後レポートのまとめ
4. 基礎編 感想の共有
5. 基礎編 疑問点の共有
6. 教育文化活動の課題について
7. 今後の実践方策について
8. 事務連絡

### ■ ❷ プランナー経験者との意見交換

プログラム4の感想の共有では、参加プランナーの自己紹介とあわせ、基礎編に対する感想を共有しました。そして、プログラム5では、基礎編にて講師を務めたJAしまね 越野本部長と参加プランナーの意見交換をおこないました。意見交換のなかでは、「若い職員の感性や行動力をどう引き出していくか」という人材育成についての質問がありました。質問に対し、越野本部長からは「若手職員へ課題を与えて、その解決策を考えてもらうような、部署横断的なプロジェクトチームをつくり、若手職員の意見を吸い上げる場をつくる。そうすることで、若手職員たちが何を考えているのか、さらに言えば、課題を共有することで、本

人たちが5年度、10年後のJAの姿を想像することにもつながるはず」という意見が出されました。30分ほど質疑応答がおこなわれ、越野本部長は、プランナー経験者として、プランナーの4つの役割（「啓発者・教育者」「企画者」「実践者」「組織者」）にも触れながら、考えや思いを各プランナーへのエールとともに送りました。



小林部長は事前に各参加プランナーの事後レポートの内容や取り組みに目を通し、活発な意見交換を進行した

## ■ 教育文化活動の位置づけの重要性

プログラム6、7では、全国のJA実践事例をもとに、課題方策を共有しました。小林部長は「教育文化活動の事業計画への位置づけ」の重要性としていくつかの事例を紹介。事例をとおして小林部長は、JAのなかでの位置づけが明確化されることで、職員一人ひとりの理解促進につながるという、教育文化活動基本方針を定めることの必要性を説明しました。また、参加JAからも、取り組み事例を共有し、それぞれのJAでの取り組みイメージをつかむ機会となりました。

座談会は約2時間おこなわれ、実施後のアンケートでは「教育文化活動基本方針の事例の紹介はたいへん参考になった」「今後も継続してオンライン座談会を実施してほしい」「もっとテーマを絞って意見交換がしたい」などプランナー同士の交流に前向きな意見が多くありました。